



株式会社イトーキ 滋賀工場APセンター様

## ヒアリングから施工まで一貫通貫 安心のメーカー対応で空調課題を解決

コロナ禍で激変したオフィスでの働き方  
明日の「働く」をデザインする企業

斬新かつスタイリッシュなデザインで知られるオフィス家具の名門・イトーキ様。2023年には世界三大デザイン賞のひとつ「iFデザインアワード2023」を受賞するなど、生み出す製品のデザイン性の高さに定評があります。新型コロナウイルス禍で激変した「働き方」を、オフィス空間のデザインで支える同社。祖業であるオフィス家具メーカーから、明日の「働く」をデザインする企業へ。

多様化する時代のニーズを的確に捉え、社会課題を解決します。今後ますます加速する変化のスピードに対応すべく立ち上がったのが、イトーキ滋賀工場AP(Assemble Process)センター。分散している製品の保管・組立・出荷機能を集約し、多様化するオフィスのニーズに少量多品種生産で対応することを目指して開設されました。

従来の工場での空調課題  
目指したのはどこに移動しても快適な作業環境

かつて同社が大阪府内に構えていた工場は、大量生産を前提としたライン生産方式。作業員の移動が少ないため、スポットクーラーを使用していました。頻度が少ないとはいえ作業中の移動はつきもの。寒暖差が激しいことから、体力的に厳しいと感じる従業員もいたそうです。

さらに、APセンターは少量多品種生産が前提のセル生産方式。ほとんどの作業台にキャスターを取り付け、合理的に作業場所を変更しながら作業されています。作業員は、生産商品に合わせた生産セルに移動して作業を実施するため、どこに移動しても快適な空間づくりが必要でした。



これらの課題を解決するためにAPセンター開設メンバーに任命されたのが技術企画課 松井様。センターの立ち上げにあたっては様々な空調設備を検討されたと言います。



レイアウト変更が容易な作業台でセル生産方式に対応

## USER PROFILE

滋賀県近江八幡市  
株式会社イトーキ  
滋賀工場APセンター様

納入製品  
空冷直膨式工場用ゾーン空調機

納入年度  
2023年5月(2023年7月取材)



## ワイドな気流と確かな能力で実現する、理想の作業環境づくり

工場用ゾーン空調機、採用の決め手は「確かな能力」

当初、シーリングファンやカセット形パッケージエアコンなど様々な空調方式を検討されていました。これらでAPセンターに必要な能力を満たそうとすると、単価は安くても台数がかさむので高額になるうえ、施工も煩雑に。最終的に工場用ゾーン空調機を採用する決め手になったのは、その「確かな能力」。APセンターには3台が設置されました。風が最大20m先まで到達することに加え、高効率楕円管コイルから繰り出す13~16℃低温送風が夏の暑さ対策に効果を発揮します。松井様には冷房時期・暖房時期に分けて工場見学へお越しいただき実機のパワフル爽風を体感、ご納得のうえで採用となりました。



当社手配で施工を実施

同社では例年、1月から3月が繁忙期。その時期を避け、APセンターの稼働が停止するゴールデンウィークに施工しました。工事に合わせてご発注いただき、試運転まで安心のメーカー対応。工事には営業担当者も立ち会い、事前の打ち合わせ通りに完了しました。



確かな能力を引き出す大型室外機

## INTERVIEWEE



株式会社イトーキ  
技術企画課  
松井様



株式会社イトーキ  
滋賀第三製造部  
百田様

工場用ゾーン空調機の導入後、現場からは「どこに移動しても涼しいのでありがたい」との嬉しい声も。居住域に特化したゾーン空調が最大のテーマだったAPセンター。松井様も納得の表情です。

「部下の健康には細心の注意を払っています」と話してくれたのは滋賀第三製造部 百田様。2017年に健康経営宣言を制定して以降、2023年には7年連続で健康経営優良法人に認定された同社。細かな給水タイムの設定や休憩室の充実、自販機のスポーツドリンクは半額を会社が負担するなど、従業員が心身ともに健康に働くための取り組みが充実しています。



## 職場環境の改善をとことんまで追求するプロ意識

空港の空調設備を見て吹き出し角度のヒントを得たり、作業場の紙が飛んでしまわないよう誘引パンカーの角度を微調整したり。松井様も百田様も職場環境の改善には余念がありません。そこにあるのは従業員がより作業しやすい環境づくりをとことんまで追求する熱い思い。他社の「働く」をデザインする名門企業に見たのは、それを支える自社の「働く」もデザインするプロの姿でした。